序文

本書は「改訂版」とあるように、前回の『医学・医療概説』のあとを承けたもので、前回の「初版」は十年前に刊行された。近年の医療をめぐる事態の変化には著しいものがあって、今回の改訂にもそのことは反映されているのだが、単にこうした状況の変化に対応した今回の手直しというのを越えて、本格的な組み替えを行ったものとなっている。

前回も今回も全体は大きく２章に分かれ、各章はそれぞれ複数の「講義」（たとえば「第１講」など）からなっているのだが、大まかに言えば前回と今回の改訂版では、２つの章はほぼ入れ替わっている。前回はⅠ章が「医学・医療の現在」としての８講で、現況報告にもとづく展開が柱となっていたのに対して、今回はⅡ章が「医学・医療の最前線」となり、内容は16講とほぼ２倍となり、内容はもちろん「最前線」（つまり現在の状況）の要約である。再生医療、移植医療、生殖医療などの項目は前回にも「講」として設けられていたものだが、それぞれ新しい展開のヴェクトルがどの方向に向いているのかという動向にも、目配りを心がけた。

今回のⅠ章「医学・医療の目的と課題」は、全体として前回のⅡ章「医学・医療の倫理」と対応するところが多い。十年前には哲学・倫理学などから医療現場に招き入れられて、何やら大事な客分であるが現場の医療者としては扱いにぎこちないところもあった「倫理」というものも、いまや現場医療が実際に活動を展開する社会という場のなかでの、欠かせない要素となり定着していることが、新しい講義構成にも表れている。

分担執筆者は、河合塾が長年続けてきた「医進特別講座（医学部進学向けの、映像教材を主体とした特別講義作成のプロジェクト）」のメンバーを中心としており、このことは初版から引き続く特色として、強調しておきたい。日本の社会全体の高齢化に見合う欠かせない医療として、活動の場としては「地域医療」、「在宅医療」、そして活動内容としては「認知症」への対応、「緩和医療」、さらに「終末期医療」などを、それぞれ別個の「講」項目として取り上げたのも、この一連のプロジェクトの取材・構成の体験から得られた特色の反映である。

全体として医学・医療の「目的と課題」（Ⅰ章）と、「最前線での動向」（Ⅱ章）に分かれているということは、先に概括した通りだが、医療の現実のあり方はこのように割り切って整理できるものではない。医療での「倫理」という言葉が、Ⅰ章でも（「医学・医療の倫理」）、またⅡ章でも（「遺伝子医療の倫理」、「生殖医療の倫理」、「終末期医療の倫理」）相互乗り入れをしている一事なども、現実の医療活動の社会における事柄の複雑さ、重層した事情を反映しているだろう。本書の表題に、「医学部進学のための特別講座」という「ツノ書き」が加わっているように、医学系の入試の小論文などで、こうした複雑さをどう捉えるかというような問いかけも、今後ますます目立ってきて、受験者はこうした事態にどう対応すべきか、あらかじめ自分の考えを整理しておくことも重要になるだろう。今回の改訂版が、こうした進学準備の手助けとして役立つことを、執筆者一同は望んでいる。

監修　長野　敬

本書の目的と利用法

[本書の狙い]

医学部の入試には、医学・医療に関する一定の知識の有無を問う出題が散見する。特に面接や小論文試験では、普通の高校生なら知るはずもないような専門的な事柄についてまで、知識や見解が問われるのがごく当たり前の傾向になっている。高校までの教育の枠を超えたこの入試傾向は、受験生には捉えどころがなく、対策の立てようもないもので、ただでさえ難関の受験に挑む医学部志望生にとって、ますます厳しい状況を作り出している。

しかし、医学部に入学することは、ほとんどそのまま医師になることを意味している。だとすれば、日頃から医学や医療について人並み以上の興味・関心を持ち、自分なりの見識を有する者が受験で有利とされることは、一般的に考えれば至極もっともな処置だとも言える。受験生には、医学部を志望する時点で既に医師となる自覚が必要であり、世間も大学もそのことを期待しているのである。冒頭に述べたような入試傾向が止むことはないだろう。

そのような厳しい状況の中で、「自分たちにもわかりやすい医学・医療の入門書はないだろうか？」という受験生たちの要望は大きい。そこで、私たち河合塾講師が、これまでの教材作成の経験と成果を活かし、満を持して、高校生・受験生のための易しい医学・医療概説をまとめることにした。医学・医療の現状と展望、それに倫理問題などを一通り概観するための、これまでの受験参考書にはない、医学部志望生のための専門書である。

そして、初版から約10年。各方面からご賞賛をいただいた一方で、医学・医療の世界はさらに進歩し、変化した点も多い。この間、若干の部分的改訂を加えたものの、我々の側にもう一度改めて医学・医療界を見つめ直し、その概況を紹介する必要と意欲が生じたのを機会に、この度、根本的に全体を改めるに至った。

面接や小論文対策に、そして何よりも自身の進路決定の再確認に役立ててほしい。

[本書の構成]

本書は2つの章から成っている。

Ⅰ章「医学・医療の目的と課題」では、医学・医療の目的、対象、方法といった根本原理について学び考え、今後の医療が取り組むべき課題を概観する。

Ⅱ章「医学・医療の最前線」では、具体的にいくつかの領域を取りあげて、現在の医学研究や医療実践の状況と展望を紹介するとともに、そこから生じる倫理問題について解説する。現場で取材を重ねてきた河合塾講師による、医学・医療の最前線ルポである。

[本書の使い方]

2つの章の全25講は、それぞれ担当の河合塾講師による講義の形を取っている。各講師の個性を活かすために、あえて文章スタイルを統一していないので、味わいも講ごとに異なるだろう。一講一講じっくりと読みながら情報を収集し、考えを深めてほしい。

各講の内容理解のポイントとなるキーワードには、各講の後に改めて詳しい解説を付してある。これを参照することで、本文理解を十分に深めてほしい。

目次

序文 …… 2
本書の目的と利用法 …… 4

Ⅰ章　医学・医療の目的と課題
第 1 講　医療の世界 …… 8
第 2 講　医学と医療 …… 14
第 3 講　医学・医療の倫理 …… 20
第 4 講　医師の役割 …… 26
第 5 講　キュアとケア …… 32
第 6 講　現代人と病気 …… 38
第 7 講　病気と遺伝子 …… 46
第 8 講　高齢化と医療 …… 56
第 9 講　障害 …… 62

Ⅱ章　医学・医療の最前線
第 1 講　プライマリ・ケア …… 70
第 2 講　地域医療 …… 76
第 3 講　在宅医療 …… 84
第 4 講　リハビリテーション …… 88
第 5 講　遺伝子診断 …… 94
第 6 講　ゲノム医療 …… 102
第 7 講　遺伝子医療の倫理 …… 110
第 8 講　がんの病理と予防 …… 116
第 9 講　がん治療の現在 …… 122
第10講　再生医療 …… 128
第11講　移植医療 …… 138
第12講　生殖医療 …… 148
第13講　生殖医療の倫理 …… 154
第14講　認知症への取り組み …… 160
第15講　緩和医療 …… 166
第16講　終末期医療の倫理 …… 174

あとがき …… 180
資料編 …… 181
索引 …… 194